

## 第14回防災文化講演会「生活の楽しみであった生業の復興」を開催しました(2016/9/17)

テーマ：漁業、復興

URL：<http://irides.tohoku.ac.jp/organization/kesenuma/kouenkai.html>

9月17日(土)に、気仙沼中央公民館(宮城県気仙沼市)にて、「第14回防災文化講演会『生活の楽しみであった生業の復興』」(主催：東北大学災害科学国際研究所、共催：気仙沼市)を開催しました。当研究所は平成25年7月に「気仙沼市と国立大学法人東北大学災害科学国際研究所との連携と協力に関する協定」を締結するとともに、気仙沼分室(通称：気仙沼サテライト)を気仙沼市内に設置して、防災・減災や復興の推進に連携して取り組んでいます。その活動の一環として、防災に関する講演会を年に数回開催しています。

第14回を迎えた今回は、同WG長の川島秀一教授(人間・社会対応研究部門)の冒頭挨拶の後、「漁業」「復興」をテーマに3つの講演が行われました。講演では、当研究所の川島秀一教授より、閑上の和船や伊里前川のシロウオ漁の復興を事例に、周縁的な生業が復興に果たす役割・重要性について述べました。気仙沼朝市運営委員会の内海智富委員長からは、気仙沼朝市の復興までの経過や、消費者と販売者のふれあいが朝市にもたらした影響、旅の文化研究所の山本志乃研究主幹からは、市(イチ)の成り立ち、気仙沼朝市の発展経過、災害などの社会の危機状況における市(イチ)の役割や可能性について話題提供がありました。

講演、総合討論とも活発な議論が行われ、25名にご参加いただきました。本講演会の司会は、佐藤翔輔助教(情報管理・社会連携部門)がつとめました。

「和船の復元と漁撈の復興－閑上と歌津－」

東北大学災害科学国際研究所 教授 川島秀一

「気仙沼朝市の復興」

気仙沼朝市運営委員会 委員長 内海智富

「震災と朝市の復興－閑上と気仙沼－」

旅の文化研究所 研究主幹 山本志乃



講演①・川島秀一教授



講演②・内海智富氏



講演③・山本志乃氏



会場の様子

文責：佐藤翔輔(情報管理・社会連携部門)